

23 南大東島“琉球層群”からの大型有孔虫の動向

松丸国照(埼玉大学・教育)

南大東島には広く“琉球層群”の石灰岩が分布している。この石灰岩には大型有孔虫を数多く含有している。礁前縁, サング・石灰藻の礁, 礁後面, 礁湖からの合計74地点からサンプリングを行ない, 大型有孔虫各種の分布を検討。その結果, 16属, 18種が同定され, 全体として *Acervulina inhaerens*, *Marginopora vertebralis* 群集からなる。礁前縁には *Operculina venosa*, *Heterostegina suborbiculus* が分布し, 他地域にはいない。礁には *Heterostegina suborbiculus* が1地点にいる。池は, *Acervulina inhaerens*, *Marginopora vertebralis*, *Heterostegina suborbiculus* が分布する。礁前縁および礁後面, 礁湖では *Amphistegina radiata*, *Marginopora vertebralis*, *Acervulina inhaerens*, *Homotrema rubrum*, *Miniacina miniacina*, *Alveolinella quoyi*, *Calcarina spengleri* などの共通種が多い。

南大東島には *Cyclocyclus carpenteri*, *Baculogypsinoides spinosus* は発見できない。南西諸島の琉球層群との対比を見ると, 南大東島の石灰岩は *Calcarina spengleri* の卓越する読谷石灰岩以降の層序に当ることが考察される。